

感無量。素晴らしき滝登り

## 芋川 ジロト沢右俣

大野

【日時】 2008年8月31日(日)

【メンバー】 L大野 矢野 小川

知る人ぞ知る怪しい沢。ジロトに通って5年になる。人里から近いのにあまり人臭がない。随所に展開する美しいブナ森を含め、とっておきの裏庭というべき場所だ。その中心に坐すのが布晒しの大滝。小泉氏らの初登記録は知っていたものの、自分が登る滝ではないと認識していた。しかし、昨夏、越後沢大滝を登り、「意外と登れるのでは!？」という気になってきた。そう考え始めると、思いは募っていく。

芝沢を狙ったこの週末。ブロッキング高気圧の影響で天候回復が遅れ、木曜時点で土曜日は全国的に雨予報。折角登れるメンバーが揃ったのに、漫然と転進ではもったいないとジロトの右俣を提案すると、矢野君は快諾。日本山岳会青年部の記録を見てビビル小川君を説き伏せ、転進を決定。

寒気は更にしつこく、気象庁は日曜も慎重な予報。新潟県地方は雨マークが並ぶ。しかし、諦められず、時折スコールが降る横浜を出て、一路北へ向かう。

辿り着いた三国川ダムは、雨こそ降っていないものの雲は厚い。ダメなら偵察でもしゃーないと開き直り、「パラパラ雨なら決行。ザーザー降っていたら中止。」という明確な基準を立て、眠りについた。

### 8月31日(土) 曇り後晴れ 朝のうち一時パラパラ雨

朝起きると、道路が乾きかけている。空は明るい。これなら行ける!

高曇りだが天気予報は相変わらず芳しくなく、雷注意報も出ている。

通い慣れた芋川沿いの道は年々伸びて、ついに吊り橋の直前にまで達した。財政事情厳しき折、こんな所に堰堤を作る金があることが驚きである。前日までの雨量も多くなかったようで、水量は少ない。

沢に降りて、しばらくすると、パラパラ雨が降ってきたが、そのままに進んでいると、雨はすぐにあがり、次第に明るくなってきた。

相変わらずショボイ左俣を分けてすぐに20m滝。まずは、足慣らしに矢野君がリード。右側のリッジをフリクションで軽く突破。

目の前には、布晒しの滝下部100mが大きく聳え立つ。右側をフリーで登った記録もあるが、クライマーではない我々には問題外。左の小泉ルートからの巻きを探る。

1P(20m 小川リード)E ルンゼのF1を左から巻き、灌木リッジの取付きを目指す。F1の上に一旦集まり、滑る樋状3mF2をチョックストーンを掴み全身フリクションで登ると、リッジ下の灌木帯に出た。



【最初の滝 20m】

2P(35m 大野) 灌木リッジを登る。落石に注意が必要だが、難しくはない。安定した場所でピッチを切る。

3P(50m 矢野) 灌木の木登りを更に10m。ハングに頭を抑えられ、バンドから右側・水流沿いの灌木帯を目指す。……。引っ張ると地盤ごと動く灌木をつかんで、強引にバンドに這い上がるのは生きた心地がしない。ふと気がつくと、灌木に白い残置があった。さらに、細い針葉樹に体重をかけ、崩れかけた地盤に根を下ろした灌木から小リッジを乗り越してようやく一息。さらに、灌木と草付きのコンタクトラインを25mほどでテラスである。



【核心部を超えて（3P目）】

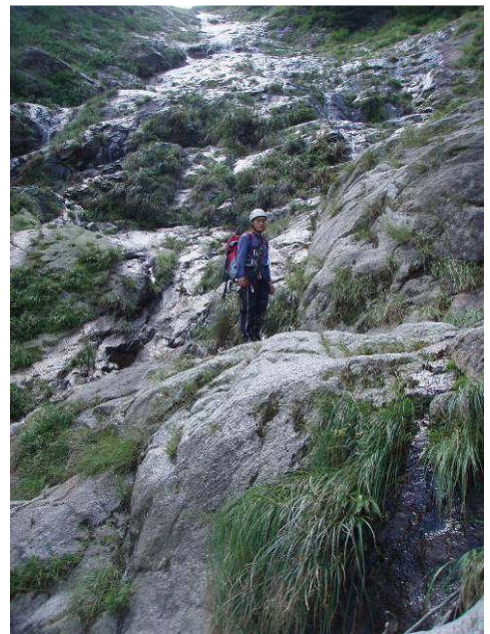
その先は、傾斜が落ちるのでノーザイルで……。と調子に乗って幅広に水流が流れる中央部を登っていくと、次第に傾斜が立ってきて苦しくなってくる。右側から登っていた矢野君にザイルを垂らしてもらって脱出。下を眺めると水流がU字型の空間に吸いこまれている。

4P(40m 小川) 右壁に取り付くが、行き詰まる。残り二人が右側から巻いてザイルを垂らす。段取り悪く少々時間を食った。小川ルートも細かく、高度感があるが、行けないルートではなかったと思う。

5P(40m 小川) ヤブとスラブのコンタクトライン。

6P(45m 大野) ルートを選べばフリーでも可。ノーピン。

テラスから先は、更に傾斜が落ち、巨大な空間に不釣り合いな小さな落ち口から水がはき出されている。何度も後ろを振り返り、余韻を噛みしめつつ一歩一歩登ると、ヤブのトンネルに吸いこまれていく。主稜線には雲がかかっているが、青い空が広がり、見下ろす空間には、秋の気配も感じる。握手。ここを登れる日が来るとは思っていなかった。若き登攀隊長二人に感謝。



【布晒の滝中段】

あとは、中間尾根を乗越し、左俣を渡って雨量計を経て林道に戻るだけ。結局、雨も降らず。芝沢に行けなかったのは残念だが、不安定な天気予報が続く中で、会心の山行となった。

### 【行程】

8/31 林道(6:00)－布晒滝下(8:00)－布晒滝落口(13:40)－林道(16:40)

【地図】 六日町、兎岳 【グレード】 3級上